



平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年7月27日

上場会社名 アイカ工業株式会社
 コード番号 4206 URL <http://www.aica.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小野 勇治
 問合せ先責任者 (役職名) 財務統括部長 (氏名) 市川 豊明
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月4日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東名
 TEL 052-409-8261

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	36,619	8.5	4,004	14.6	4,203	17.2	2,409	14.5
29年3月期第1四半期	33,753	5.6	3,493	13.8	3,586	9.4	2,104	8.2

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 2,599百万円 (316.5%) 29年3月期第1四半期 623百万円 (69.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	36.90	36.88
29年3月期第1四半期	32.24	32.22

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	162,223	119,128	70.4
29年3月期	164,634	119,685	69.8

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 114,262百万円 29年3月期 114,898百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		38.00		47.00	85.00
30年3月期					
30年3月期(予想)		40.00		48.00	88.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	75,000	3.1	8,900	2.7	9,000	2.9	5,450	4.0	83.48
通期	156,000	2.9	18,600	2.8	18,800	2.3	11,400	3.0	174.61

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期1Q	67,590,664 株	29年3月期	67,590,664 株
期末自己株式数	30年3月期1Q	2,303,979 株	29年3月期	2,303,875 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期1Q	65,286,720 株	29年3月期1Q	65,287,367 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間の当社グループを取り巻く経営環境は、日本国内においては、米国政権の政策動向や海外経済の不確実性による国内景気への影響が懸念されるなか、企業業績や雇用・所得環境に改善傾向が見られるなど、緩やかな回復基調で推移しました。また、アジア・オセアニア経済は、輸出の回復を背景に景気に持ち直しが見られました。

国内建設市場においては、低水準な住宅ローン金利や政府による住宅取得支援策等により住宅着工はおおむね横ばいで推移しました。非住宅関連は、企業の設備投資やインバウンド効果によるホテルの新築・改修需要を背景に着工面積の回復が見られました。

このような経営環境の下、当社グループは社会課題の解決に貢献する商品群の拡充、次世代を担う注力分野の育成、アジア太平洋地域における接着剤やメラミン化粧板の販売強化などを推進いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高36,619百万円(前年同四半期比8.5%増)、営業利益4,004百万円(前年同四半期比14.6%増)、経常利益4,203百万円(前年同四半期比17.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益2,409百万円(前年同四半期比14.5%増)となりました。

セグメントの業績については次のとおりであります。なお、セグメント間の内部売上は除いております。また、前連結会計年度において「建装材セグメント」「住器建材セグメント」と分けて報告していましたが、当第1四半期連結会計期間より「建装建材セグメント」として統合して記載する方法に変更しております。以下の前期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

(化成品セグメント)

接着剤系商品は、国内においては施工用接着剤、合板用接着剤、集成材用接着剤が好調に推移し、売上を伸ばすことができました。また、海外においてもアジア太平洋地域における接着剤・産業用樹脂の需要を取り込むことができた結果、売上を伸ばすことができました。

樹脂系商品は、建築・土木用の補修・補強材やHACCP(ハサップ:国際的な食品の衛生管理手法)導入義務化に対応する高耐久塗床材「アイカピュール」が好調に推移しましたが、新築住宅向けの外装・内装仕上塗材「ジョリパット」が低迷したことなどから、売上が前年を下回りました。

非建設分野への取り組みとして注力している機能材料事業につきましては、有機微粒子や電子材料が好調に推移し売上を伸ばすことができました。

このような結果、売上高は19,066百万円(前年同四半期比9.1%増)、営業利益(配賦不能営業費用控除前)は1,543百万円(前年同四半期比24.8%増)となりました。

(建装建材セグメント)

メラミン化粧板は、国内においては、高い意匠性と指紋などの汚れが目立ちにくい特性をもつメラミン化粧板「セルサス」や、0.7mmという薄さで不燃性を兼ね備えた薄物メラミン不燃化粧板「アイカフレアテクト」など、高付加価値品がホテルや教育施設の新築や改修需要を取り込み、売上を伸ばすことができました。また、海外においても、インドネシアやシンガポール、タイを中心に売上を伸ばすことができました。

ボード・フィルム類は、汎用的なポリエステル化粧合板や木口化粧材が商業施設の着工減の影響を受けたことから、売上が前年を下回りました。

メラミン不燃化粧材「セラール」は、底堅い住宅着工によりキッチンパネル用途を中心に好調に推移し、売上を伸ばすことができました。また、消臭機能を付与した「セラール消臭タイプ」も駅のトイレや医療介護施設、保育園などで採用が拡大しました。

不燃建材は、アクリル樹脂系塗装けい酸カルシウム板「ルナライト・カラー」が工場・倉庫や教育施設の需要を取り込み、売上を伸ばすことができました。

カウンター・ポストフォーム商品は、メラミン化粧板の加工品、人工大理石「コーリアン」、高級人造石「フィオレストーン」が好調に推移し、売上を伸ばすことができました。

建具・インテリア建材は、医療・介護施設に適した機能引戸「U.D.(ユニバーサルデザイン)コンフォートシリーズ」やメラミン化粧板の特性を活かした「メラフュージョンシリーズ」が好調で、売上を伸ばすことができました。

このような結果、売上高は17,553百万円(前年同四半期比7.9%増)、営業利益(配賦不能営業費用控除前)は3,103百万円(前年同四半期比9.8%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は112,886百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,451百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が1,628百万円、受取手形及び売掛金が2,397百万円減少したことによるものであります。固定資産は49,336百万円となり、前連結会計年度末に比べ39百万円増加いたしました。これは主に有形固定資産が248百万円、無形固定資産が372百万円減少したことと、投資その他の資産が660百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、162,223百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,411百万円減少いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は36,395百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,201百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が982百万円、未払法人税等が1,366百万円減少したことによるものであります。固定負債は6,699百万円となり、前連結会計年度末に比べ346百万円増加いたしました。これは主に退職給付に係る負債が137百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、43,094百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,854百万円減少いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は119,128百万円となり、前連結会計年度末に比べ556百万円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益2,409百万円及び剰余金の配当3,068百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は70.4%（前連結会計年度末は69.8%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、当第1四半期連結累計期間の業績は概ね計画通りに推移しており、平成29年4月26日公表の業績予想からは変更ありません。今後の景気の動向によって第2四半期連結累計期間及び通期の業績見込みについては見直しが必要と判断した場合には速やかに開示いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	47,646	46,018
受取手形及び売掛金	50,549	48,151
商品及び製品	6,292	7,021
仕掛品	956	1,127
原材料及び貯蔵品	4,901	4,774
その他	5,272	6,065
貸倒引当金	△281	△272
流動資産合計	115,338	112,886
固定資産		
有形固定資産	30,024	29,775
無形固定資産		
のれん	1,318	984
その他	1,941	1,903
無形固定資産合計	3,259	2,887
投資その他の資産		
その他	16,030	16,690
貸倒引当金	△17	△17
投資その他の資産合計	16,012	16,673
固定資産合計	49,296	49,336
資産合計	164,634	162,223
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	21,541	20,559
電子記録債務	4,456	4,692
短期借入金	1,314	1,348
未払法人税等	3,255	1,888
賞与引当金	1,760	2,243
その他	6,268	5,663
流動負債合計	38,596	36,395
固定負債		
長期借入金	532	466
退職給付に係る負債	1,190	1,328
その他	4,629	4,905
固定負債合計	6,352	6,699
負債合計	44,949	43,094
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,891	9,891
資本剰余金	13,271	13,271
利益剰余金	87,570	86,911
自己株式	△2,007	△2,007
株主資本合計	108,726	108,066
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,222	4,764
繰延ヘッジ損益	△9	0
為替換算調整勘定	1,822	1,283
退職給付に係る調整累計額	137	147
その他の包括利益累計額合計	6,172	6,196
新株予約権	36	36
非支配株主持分	4,749	4,829
純資産合計	119,685	119,128
負債純資産合計	164,634	162,223

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	33,753	36,619
売上原価	23,840	26,094
売上総利益	9,912	10,525
販売費及び一般管理費	6,419	6,521
営業利益	3,493	4,004
営業外収益		
受取利息	29	36
受取配当金	120	175
その他	170	162
営業外収益合計	319	374
営業外費用		
支払利息	11	10
売上割引	38	40
支払手数料	-	61
為替差損	53	1
投資有価証券評価損	68	-
その他	55	61
営業外費用合計	226	174
経常利益	3,586	4,203
税金等調整前四半期純利益	3,586	4,203
法人税、住民税及び事業税	1,375	1,557
法人税等調整額	△140	△59
法人税等合計	1,235	1,498
四半期純利益	2,351	2,705
非支配株主に帰属する四半期純利益	246	295
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,104	2,409

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	2,351	2,705
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△377	541
繰延ヘッジ損益	△7	9
為替換算調整勘定	△1,340	△663
退職給付に係る調整額	10	10
持分法適用会社に対する持分相当額	△12	△4
その他の包括利益合計	△1,727	△106
四半期包括利益	623	2,599
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	581	2,432
非支配株主に係る四半期包括利益	42	166

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	化成品	建装建材	計		
売上高					
外部顧客への売上高	17,479	16,273	33,753	-	33,753
セグメント間の内部売上高又は 振替高	585	-	585	△585	-
計	18,064	16,273	34,338	△585	33,753
セグメント利益	1,236	2,826	4,063	△570	3,493

(注) 1 セグメント利益の調整額△570百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△571百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理部門(人事、総務、経理部門等)に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額(注) 2
	化成品	建装建材	計		
売上高					
外部顧客への売上高	19,066	17,553	36,619	-	36,619
セグメント間の内部売上高又は 振替高	674	-	674	△674	-
計	19,740	17,553	37,293	△674	36,619
セグメント利益	1,543	3,103	4,647	△643	4,004

(注) 1 セグメント利益の調整額△643百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△643百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理部門(人事、総務、経理部門等)に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は従来接着剤を中心とした樹脂製品を取り扱う「化成品」、主に非住宅市場で使われる建材を取り扱う「建装材」及び主に住宅市場で使われる建材を取り扱う「住器建材」と報告セグメントを分けておりましたが、用途開拓により「建装材」及び「住器建材」の市場性に大きな差がなくなってきたことからこの二つを統合し、当第1四半期連結会計期間より報告セグメントを「化成品」、「建装材」に区分変更することといたしました。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後のセグメント区分に基づき作成したものを開示しております。